

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 他学部・他大学出身者に拡大した特別入試制度の効果を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→ 「他学部・他大学からの受験者数・合格者数・入学者数」「他学部・他大学からの入学者に対するアンケート調査の実施」「他学部・他大学からの入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B	B	
2. 社会人に拡大した特別入試制度による社会人入学者の増加を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→ 「社会人の受験者数・合格者数・入学者数」「社会人受験者の専攻科目」「社会人入学者の履修科目(昼夜別)」「社会人入学者に対するアンケート調査の実施と分析」「社会人入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B	B	
3. 本研究科への進学希望者のニーズを把握し、受験者を大幅に増加させるために効果的な方法を検討する。	→ 「学部学生に対するニーズ調査・進路希望調査の実施と分析」「大学入試説明会の開催状況」「学部学生と大学院生の交流状況」「広報活動の強化」「受験者数」「進学希望者のニーズを把握するための検討の進捗状況」	C	C	C	C	
4. 学生募集および入学者選抜の実施に伴う合否判定基準の適切さについて、定期的に検証する。	→ 「各種入試の合否判定基準についての大学院問題検討委員会における定期的検討」「各年度における大学院問題検討委員会における検討状況についての研究科委員長への報告」	B	B	B	A	☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	他学部・他大学出身の特別入試合格者は社会人を除くと毎年1名入学するか0かであり、一層の宣伝が必要となろう。今年度より大学全体で大学院進学相談会が開かれるようになったのを機会に広報を充実していくことが課題である。
目標2	他学部出身社会人に関しては2009年度まで0であったが、入試制度改革により2010年より恒常的に入学するようになった。院生アンケートと合わせ大学院運営委員会で検討したが、学部法学教育を受けていないため、法学部出身院生との落差を如何にして補うかが課題として浮かび上がってきた。
目標3	進路志望についてもアンケートを行ったが、この間、税理士志望者が増えており、2010年度に税法の専任ポストを増やし、従来の非常勤の教員と合わせ指導体制を強化した。大学院受験者は2009年度の入試改革で2010、2011年度と志望者数、合格者数共に増えたが、その後、横這い状態が続いている。さらなる充足率の向上を目指すには広報面も含め新たな方策が必要となる。
目標4	各種入試の判定基準の適正さについては大学院運営委員会で検討し、研究科委員長に報告している。また、入試改革後、受験資格についても問い合わせが多く、大学院運営委員会で適宜検討し、研究科委員会で承認を得ている。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学研究科】		前期/後期課程	単位	2009	2010	2011	2012	2013	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	45	45	45	45	45	・5/1現在
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標2	志願者総数	前期課程	人	29	39	55	42	39	・5/1現在
		後期課程		5	8	4	5	2	
指標3	合格者数	前期課程	名	18	25	32	23	21	・5/1現在
		後期課程		2	2	2	4	1	
指標4	入学者数	前期課程	名	13	20	26	20	20	・5/1現在
		後期課程		2	2	1	3	1	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.6	0.9	1.2	0.9	0.9	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.8	1.3	0.7	0.8	0.3	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.36	0.32	0.37	0.41	0.44	・5/1現在 ・入学者数÷入学定員
		後期課程		0.43	0.37	0.37	0.33	0.30	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	61.5%	50.0%	61.5%	60.0%	55.0%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	100.0%	33.3%	0.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	90	90	90	90	90	・5/1現在
		後期課程		18	18	18	18	18	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	29	36	49	49	44	・5/1現在
		後期課程		11	6	5	6	5	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	32.2%	40.0%	54.4%	54.4%	48.9%	・5/1現在
		後期課程		61.1%	33.3%	27.8%	33.3%	27.8%	